

山治の林有国

つばけさわ

坪毛沢の木えん堤

～時の流れを見つめて～



青森県五所川原市 熊詰山国有林

(画：第一美術協会員 岡村重子よし)

津軽森林管理署 金木支署

〒037-4002 青森県北津軽郡金木町大字金木字戸野200-490

〈竣工年数と費額〉

番号	竣工年数	名 称	経費 (円)	
			見 積	実 績
①	昭和33年	1号木太夫堂	20.0	2.5
②	大正5年	2号木太夫堂	8.0	不明
③	昭和32年	3号木太夫堂	4.5	3.0
④	昭和29年	4号木太夫堂	17.0	3.5
⑤	大正5年	5号木太夫堂	6.0	2.2
⑥	昭和28年	6号木太夫堂	8.0	3.0
⑦	大正5年	7号木太夫堂	9.0	1.2
⑧	昭和29年	8号木太夫堂	10.0	3.0
⑨	昭和29年	9号木太夫堂	14.0	3.0
⑩	大正5年	10号木太夫堂	10.0	1.0
⑪	大正5年	11号木太夫堂	12.0	2.0



大正5年竣工の現状

大正5年竣工の木太夫堂は、水害等の被害が頻りに発生し、始末は甚だしく、朽ちた材が捨てられ、一部の部材が抜け落ちたり、柱脚の腐損が見られるなど被害が深刻ですが、今でも本来の役割を十分に果たしています。



1号木太夫堂



2号木太夫堂

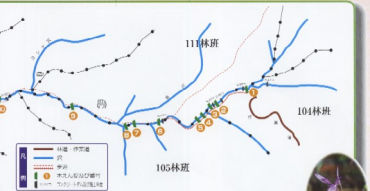


7号木太夫堂



10号木太夫堂

えん壺（治山ダム）は、河川の浸食による荒廃の危険性のある深岸及び深床を固定して山腹の崩壊及び不安定土砂の移動を防止し、下流への土砂流出を抑制しています。



ヒバ林内にひっそりと咲くヒメホテイラン



木えん壺周辺に生息するニホンザリガシ

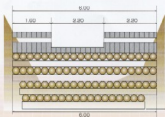


11号木えん壺

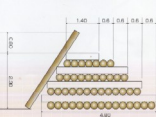
大正5年に竣工した堤堰図

竣工当時の記録は残っていませんが、現地において計測を行い復元しました。部材は丸太のよま使用し、結事はボルト締めにより施工しています。

正面図



側面図



昭和27年5月16日新工口の状況

昭和の木えん橋は、袖部などで欠損がみられるものの、部材の腐朽はあまり進行しておらず、施工当時の状態が維持されています。

昭和28年竣工後木えん橋の状況



現在

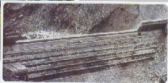


施工中

昭和29年施工後木えん橋の状況



現在



施工中

昭和30年施工工事本流大堤の完成



現在



本流大堤の完成後の状況



完成時

本流大堤の2・9日の状況



昭和30年施工時



昭和30年施工時



昭和32年施工時

木えん堤と坪毛沢

大正5年に施工された坪毛沢の木えん堤6基（このうち1基は現在不存）は、南森分房最初の治山工事と言われています。昭和においても6基施工されていますが、資材運搬路のない当時は全て現地調材のヒバ被蓋木を活用して施工していました。

表紙の絵や右の写真（6号木えん堤）などの後方にコンクリートの治山ダムが写りますが、これは昭和33年4月に坪毛沢の最上流部で20万㎡の山崩落が発生したことから、予想された流出土砂量15万㎡の抑止のために施工したもので、木えん堤を守るように設計されています。

大正、昭和、平成と時の流れをみつめてきた木えん堤は長くべき耐久性を発揮して、まだまだ現役として活躍しています。

現地で皆さんのお越しをお待ちしております。



位置図

